

川内村町分地区 景観ガイドライン

公共施設編

Public Spaces Design Guidelines 令和3年3月



はじめに

四方を山々に囲まれ、中心に木戸川が流れる町分地区では、この地の気候風土と調和した生活生業が連綿と営まれてきました。現在、町分地区に広がる水田や水路、まち並み等の景観は、そうした長年にわたる生活生業の結果として存在し、この地の気候風土に対応した「（暗黙の）約束事」に則って、美しく形成されています。

これからもこの美しい景観を守り、その魅力に磨きをかけていくためには、今後この地で行われる建築行為や公共事業等において「約束事」が尊重され、周囲の景観と調和するよう配慮されることが必要です。しかし、現状では、町分地区には明示されたルールは存在せず、一貫した景観形成が行われる状況にありません。そのため、地区住民や域外の方、行政機関等が共有できる「景観ガイドライン」を策定し、町分地区における景観配慮事項を明示することとしました。

官民の一体的な景観形成を目指して、『町分地区景観ガイドライン』は、道路や公共サイン等を対象とする【公共施設編】（本編）と、建築行為、開発行為等を対象とする【まち並み編】（別冊）の2部構成としています。今後、町分地区において建築行為、開発行為、公共事業等を行う場合には、『町分地区景観ガイドライン』に従った配慮が必要となります。

【公共施設編】は、町分地区における景観形成の基本的な方針を示した「大切にしていきたい町分のまち並み」と、公共施設整備のデザイン基本計画を示した「公共施設デザインの基本理念」「道路・ポケットパーク・小さな交通拠点・フットパス・公共サインのデザイン」によって構成され、今後、川内村の公共事業はこれらに則って実施します。また、県や国の事業においてもご協力をお願いしていきます。

なお、『町分地区景観ガイドライン』は、地区住民を対象としたアンケート結果を踏まえて、地区住民で構成された「町分地区景観形成委員会」で検討を行い、パブリックコメント等を経て、令和3年3月に策定しました。また、その上位計画である『町分地区景観づくり構想』（令和2年3月）を実施していくためのガイドラインとして位置づけられます。



目次

- 1章 大切にしていきたい町分のまち並み・・・3
- 2章 公共施設デザインの考え方・・・・・・・・9
- 3章 道路のデザイン・・・・・・・・・・15
- 4章 ポケットパークのデザイン・・・・・・27
- 5章 小さな交通拠点のデザイン・・・・・・29
- 6章 フットパスのデザイン・・・・・・・・31
- 7章 公共サインのデザイン・・・・・・・・35



1章 大切にしていきたい町分のまち並み

自然風景

町分地区の景観の基盤となっているのは、地区を取り囲む山々や木戸川等の自然環境です。これまで地区住民が大切にしてきた自然をこれからも大切に、自然との調和を意識していくことが景観形成の基本となります。



町分地区を囲む緑深い山々

町分地区に沿って南北に流れる木戸川



1章 大切にしていきたい町分のまち

生活生業の風景

自然環境や気候風土と調和した生活生業が営まれてきた町分地区には、水田、畑地、水路等が面的に広がっており、自然と調和した柔らかな風合いの風景を構成しています。これまで連綿と営まれてきた生活生業による風景をこれからも大切に守っていきます。



季節ごとの風景と食を育む豊かな水田



町分の隅々に清らかな水を運ぶ水路

生活生業の風景

住宅や農地の間を通る小道やアイストップとなる樹木も、町分らしい柔らかな風景を構成しています。

子どもたちの遊び場にもなる小道、暑い日には木陰をつくり、季節ごとに花や実をつける樹木を大切に守り 潤いのある生活環境を維持していきます。



町分の風景を彩る樹木



子どもたちの遊び場・
通学路になる小道



大きな樹木がつくる木陰

1章 大切にしていきたい町分のまち

受け継がれてきた時間、場所

町分地区は人々（生者、ご先祖様等）との交流を大切にしてきた地区であり、道沿いのお地藏様やお盆のた
いまつ、麓山神社、天山文庫等、その祭事や場所を丁寧に受け継いできました。
これからもこうした時間や場所を受け継いでいくために必要な配慮を行なっていきます。



重要無形民俗文化財



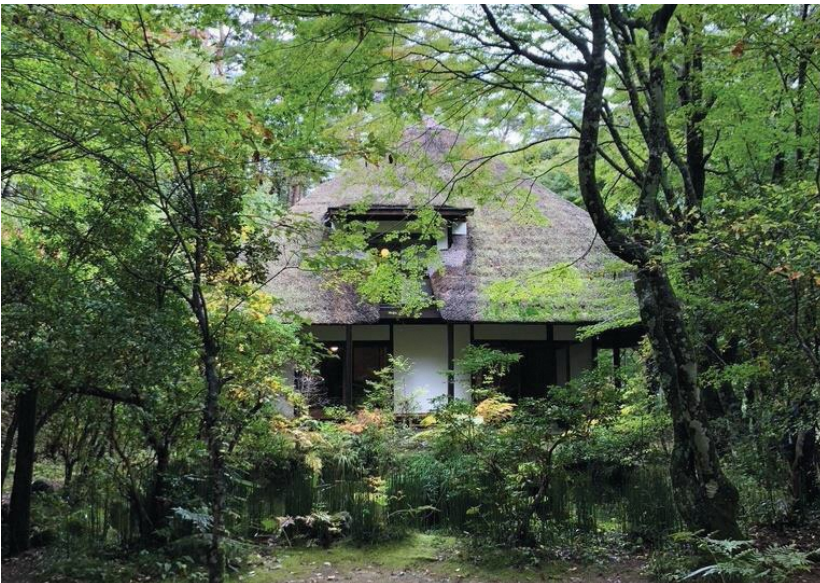
お盆の迎え火送り火



お地藏様



麓山神社



天山文庫

草花と柔らかな境界

町分地区にはたくさんの草花が見られ、道ゆく人を楽しませ、風景に彩りを与えています。敷地境界に塀を設けずに草花や生垣等を植えた住戸も多く、どこに立っても柔らかく、広々とした印象を受けます。敷地内外の自然を、地区全体で共有するまち並みをこれからも大切に引き継いでいきます。



季節の彩りのある境界

町分地区で見られる花々



1章 大切にしていきたい町分のまち

風景にとけこむ建物

暑い日差しを遮る庇、雨水処理に適した勾配屋根を基本とする建物は、地区を囲む山々の稜線ともよく馴染んでいます。木材を使用したり、落ち着いた色合いを使った外壁は、まち並み全体の調和を生み出し、自然景観に溶け込んでいます。気候風土に適した建築様式を守り、景観と調和したまち並みを今後も守っていきます。



稜線になじむ勾配屋根

天山文庫にも見られる深い軒



2章 公共施設デザインの考え方

目指すまちのビジョン

「歩いて楽しいむら」

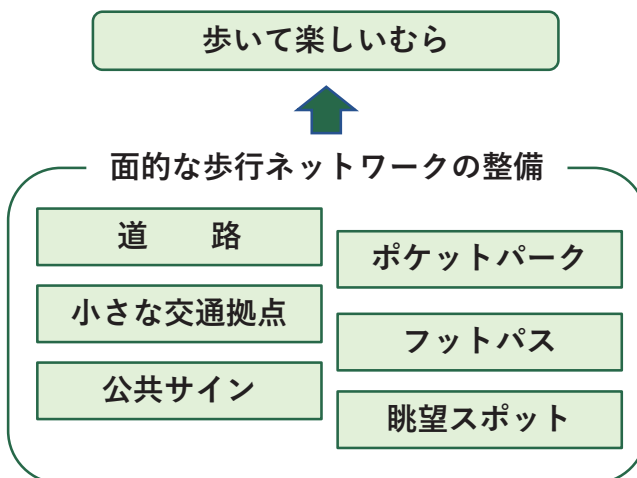
大きなプロジェクトが進む町分地区

新国道399号線および県道小野富岡線のバイパスが、ふくしま復興再生道路として、2020年代初頭の完成を目指して整備されます。これに伴い、現国道399号線沿いとなる町分地区を中心に、「義務教育学校川内小中学園建設」「町分住宅整備」のような「大きな」（＝拠点や軸）プロジェクトが進みます。

小さなプロジェクトを積み重ねて、面的な歩行ネットワークをつくる

現国道399号や川・水路沿いを含む地区全体に歩行者が主役となる道路とフットパスを整備し、合わせて、ポケットパーク、小さな交通拠点、公共サイン、眺望スポットを整備し、「面的な歩行ネットワーク」をつくり、誰もが安心して気持ちよく歩けるエリアづくりを行ないます。

大きなプロジェクトとあわせて、このような「小さな」（＝ネットワーク、面的）プロジェクトを官民が力を合わせて進め、「歩いて楽しいむら」を目指すことで、住みたいむら、訪れたいむらを実現します。



2章 公共施設デザインの考え方



ビジョンの実現に向けた計画図

公共施設デザインの基本理念

1章で述べた「大切にしていきたい町分のまち並み」に配慮した公共施設等を整備し、「歩いて楽しいまち」「住みたいまち」「訪れたいまち」を実現するため、公共施設デザインの基本理念を次の通り設定します。

① 人のためのデザインであること

町分地区は徒歩や自転車、パーソナルモビリティで移動が成り立つコンパクトな大きさのまちです。公共施設の計画、設計、施工、運用において、そうした人の視点や尺度を中心に据えた、人にとって心地が良いデザインを原則とします。

② 誰にとっても使いやすいデザインであること

子供からお年寄りまで、障がいの有無、国籍や文化等に関わらず、町分地区に関わる誰にとっても安全で快適な施設として整備するとともに、ユニバーサルデザインの理念に基づき、使いやすさはもとより、美しさの視点にも配慮したデザインを原則とします。

③ 町分地区の文化や時間を表現したオリジナルのデザインであること

川内村らしい風土や文化を物語る要素が残り、その中で自然的でゆったりとした暮らしが育まれている町分地区。その地域らしさを表現したオリジナルのデザインにより、地域の文化や時間のつながりを継承していきます。

④ 町分地区の自然・田園景観と調和したやさしい風合いのデザインであること

町分地区の自然・田園環境、河川・水路、山並み、木々や草花がつくる景観が活かされ、それらがさらに引き立つように、公共施設はできる限りやさしい風合いのデザインを原則とし、町分地区の自然・田園景観との調和を目指します。

⑤ 町分地区全体としてトータリティのあるデザインであること

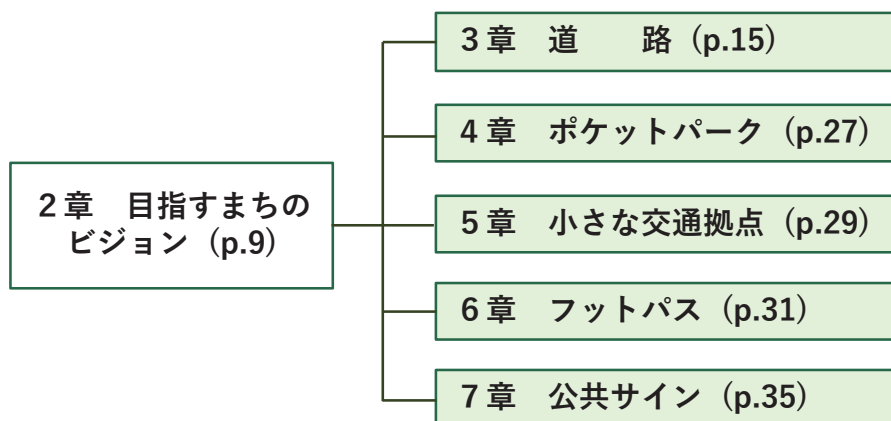
地区全体で統一感のある景観をつくるために、本ガイドラインに基づいて公共空間を整備・改善していきます。特に、隣接する施設・空間との連続性に配慮し、周辺の状況、地域の特性等に応じて調和や対比のあるデザインとします。

⑥ 長い時間の経過に耐えうる持続的なデザインであること

公共施設は一度整備されると長い年月にわたり存在し続けます。そのため時代の価値観の変化に左右されにくい、飽きのこないデザインを原則とします。また、維持管理面にも配慮した、持続的なデザインを採用します。

町分地区景観ガイドライン【公共施設編】の構成

本ガイドラインは、目指すまちのビジョンにもとづく施設ごとのデザイン方針を示しています。



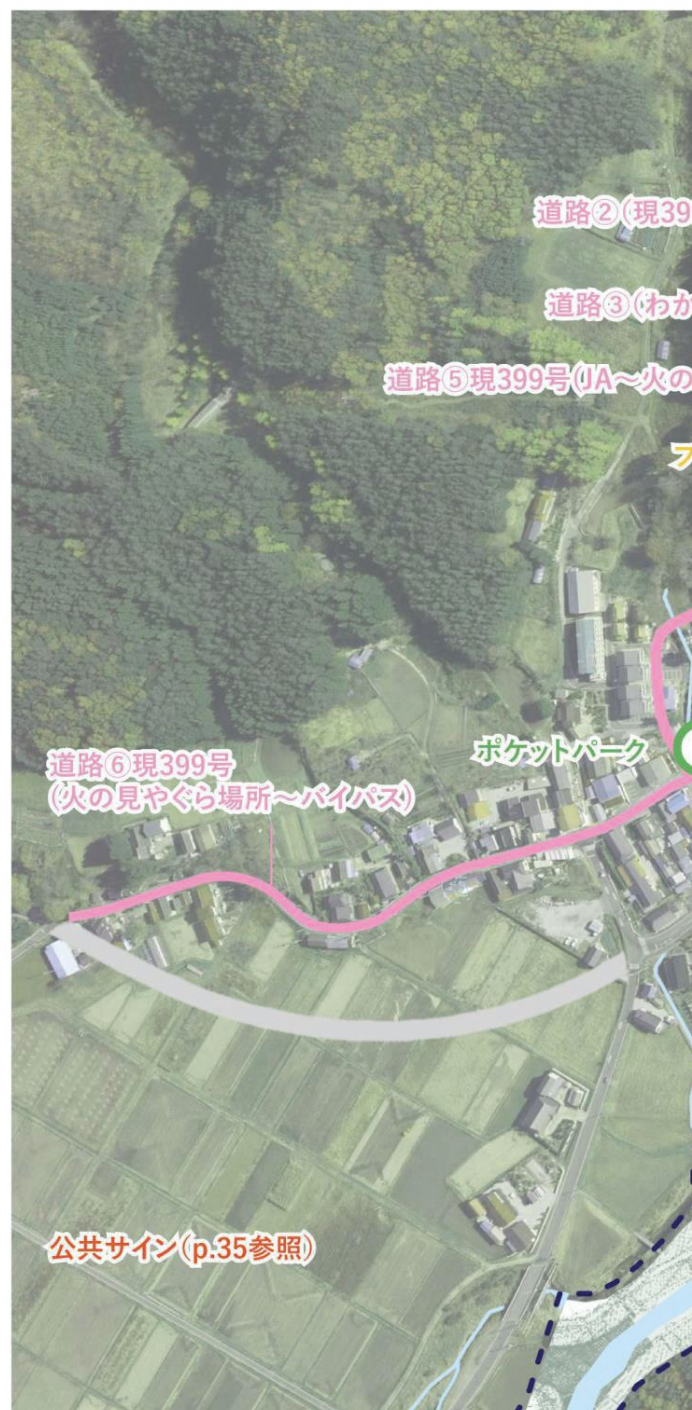
町分地区景観ガイドライン【公共施設編】の運用

町分地区で公共施設等の整備や改修を行う際には、本ガイドラインに則って実施するものとします。その際、村民や関係機関、景観・デザインの専門家等との連携、協働により、より質の高い整備の実現を目指します。

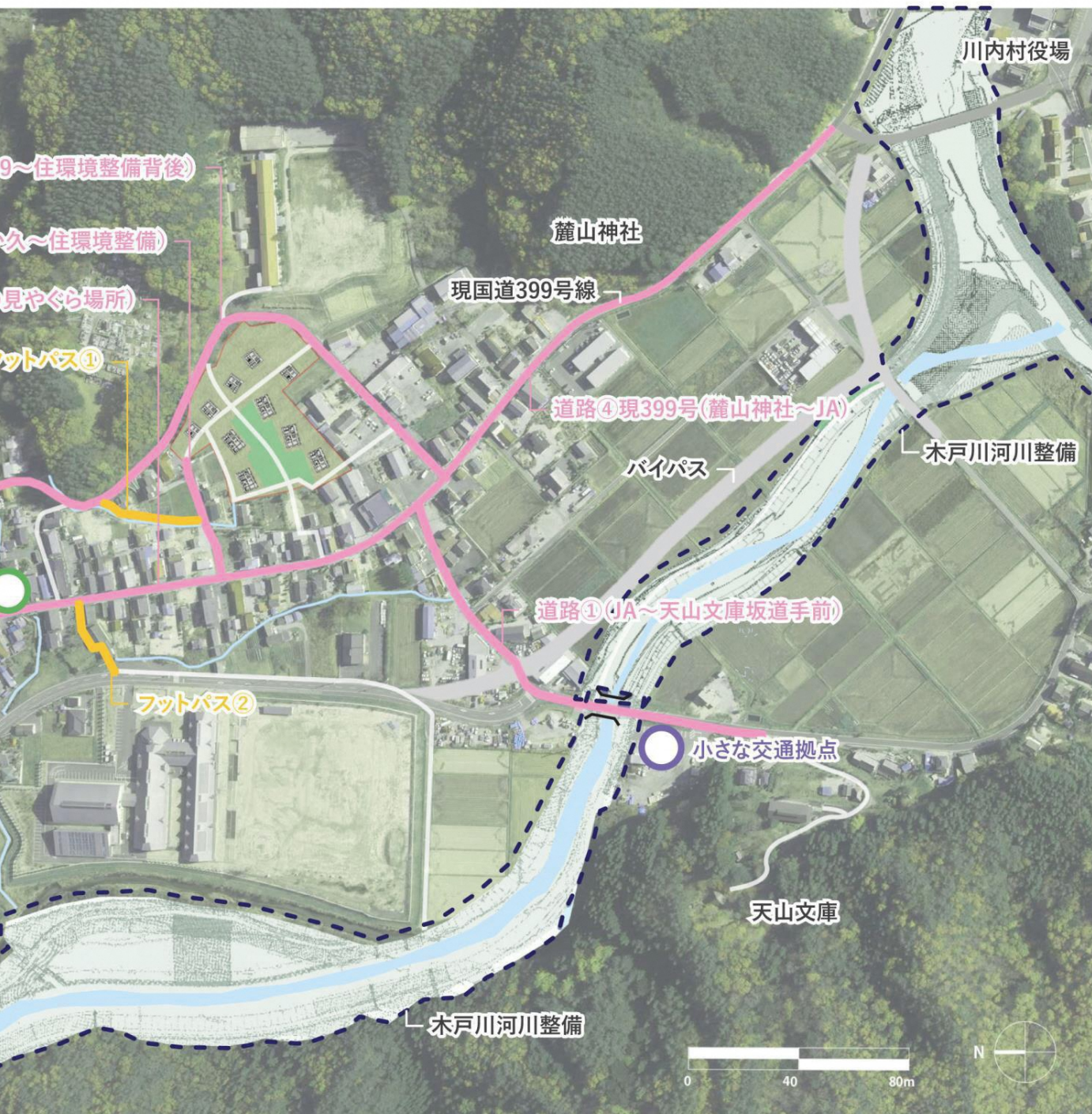
景観ガイドライン【公共施設編】の対象施設

本ガイドラインでは、ビジョンの実現に向けて右図に示す公共施設のデザイン方針を示します。それら以外の施設についても同様にデザイン方針にしたがって、個別に整備内容を検討していくこととします。

- 3章 道 路 (p.15)
- 4章 ポケットパーク (p.27)
- 5章 小さな交通拠点 (p.29)
- 6章 フットパス (p.31)
- 7章 公共サイン (p.35)



2章 公共施設デザインの考え方



対象施設の位置図

3 章 道路のデザイン

1) 道路デザインの基本方針

町分地区 道路デザインコンセプト

「町分地区全体が、安心して気持ちよく歩ける
フットパス・エリアとなる“みち”のデザイン」

町分地区 道路デザイン方針

1. 歩行者が主役となる みちの景観の創出

- 歩行者やシルバーカー（手押し車）、パーソナルモビリティ（電動カート、ウォーキングバイシクル等）が主役のみちと見なせるような景観舗装を用いる。
- 車路と路側帯の間は段差を作らず、バリアフリーなみちとする。
- 歩行者が主役となる景観舗装とし、車の速度抑制を図る。



シルバーカー
（手押し車）



パーソナルモビリティの例：
ウォーキングバイシクル
（電動アシスト付自転車）

（参考）昔の399号線の様子：安全安心に歩ける道路デザインとすることが重要である。



3章 道路のデザイン

1) 道路デザインの基本方針

2. 周囲の景観との調和

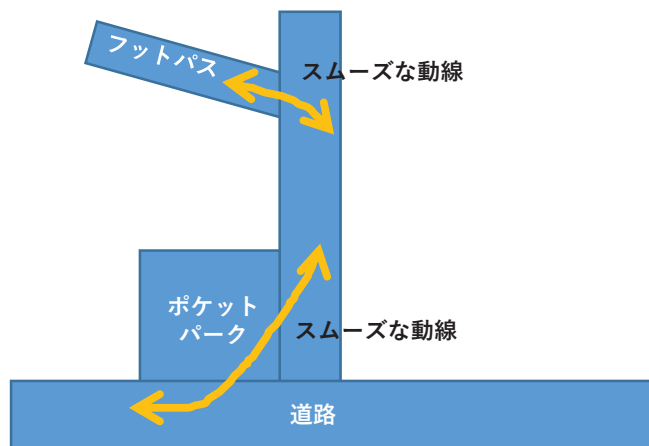
- 町分地区の自然的でゆったりとした景観に調和する、やわらかいみちのデザインとする。
 - 素材感がよく表れた舗装材料を採用する。
 - 町分地区の特徴的な景観要素である「水」を感じさせるデザインとする。
- 維持管理しやすく、エイジングしてさらにより良くなる舗装材料・付属施設を採用する。



町分地区全体を流れる水のルート

3. 道路と隣接する公共空間との連続性・一体性の創出

- 道路と隣接するポケットパーク、小さな交通拠点、フットパス等は、段差や障害物を極力外して、道路と連続的な空間とする。
- 道路や隣接する施設を含めて、地区全体で統一感のある舗装・付属施設を採用する。



道路⇄ポケットパーク⇄道路⇄フットパスといった、隣接する公共空間全体を、連続性と統一感をもたせて整備する

2) 道路デザインの共通事項

一般部

- 景観性、維持管理面でも優れた舗装として、「半たわみ性舗装」を採用する。舗装の色は、グレーまたはブルーグレー系とする。
- 現399号線は、車道幅員が狭く見える舗装パターンを採用して、車の速度抑制を図る。
- 側溝は、景観性、機能性に優れた「スリット型側溝」もしくは「管きょ型側溝」の採用を基本とする。
- 年月を経ても劣化しづらく、素材感の豊かな景観形成を目的として、白線（外側線）は石材で表示する。



半たわみ性舗装



管きょ型側溝



スリット側溝

3章 道路のデザイン

2) 道路デザインの共通事項

特殊部

- マンホールなどの構造物周りの舗装パターンは、景観性と機能性に優れた「ピンコロ舗装」を採用する。



ピンコロ舗装。白線も石材。



マンホール周りのピンコロ舗装

3) 各道路のデザイン

現399号線



より景観に調和した「外側線無し案」（電線は地中化）のイメージパース

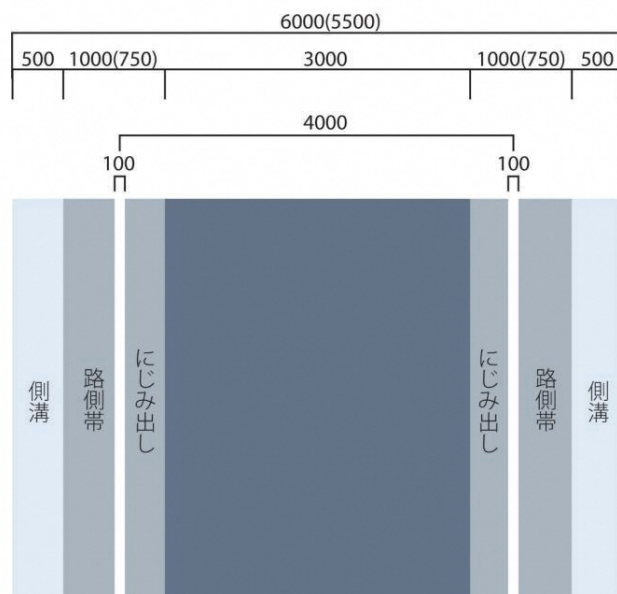


より速度抑制効果の高い「外側線有り案」（電線は地中化）のイメージパース

3章 道路のデザイン

3) 各道路のデザイン

1. 景観性、維持管理面でも優れた舗装として、「半たわみ性舗装」を採用する。舗装の色は、グレーまたはブルーグレー系とする。現399号線は、車道幅員が狭く見える舗装パターンを採用して、車の速度抑制を図る。
2. 車の速度抑制効果がより高い「外側線有り案」と景観とより高い調和が図れる「外側線無し案」を基本とし、今後地区住民の意見、関係機関との調整をふまえて、具体的な整備内容を検討する。
3. 外側線有りの場合は、車の速度抑制を図るため、その間隔は4m程度とする。また外側線は石材で表示する。
4. マンホールなどの周りは、半たわみ性舗装が痛みやすい箇所のため、ピンコロ舗装を丸く配置し、耐久性を高めるとともに、デザイン上のアクセントする。



外側線ありの平面図（なしの場合は、この寸法はそのままに外側線のみなくす。）

3) 各道路のデザイン

道路①（JA～天山文庫坂道手前）



「外側線無し案」のイメージパース



「外側線有り案」のイメージパース

3章 道路のデザイン

3) 各道路のデザイン

1. 景観性、維持管理面でも優れた舗装として、「半たわみ性舗装」を採用する。舗装の色は、グレーまたはブルーグレー系とする。現399号線は、車道幅員が狭く見える舗装パターンを採用して、車の速度抑制を図る。
2. 車の速度抑制効果がより高い「外側線有り案」と景観とより高い調和が図れる「外側線無し案」を基本とし、今後地区住民の意見、関係機関との調整をふまえて、具体的な整備内容を検討する。
3. 外側線有りの場合は、車の速度抑制を図るため、その間隔は4m程度とする。また外側線は石材で表示する。
4. マンホールなどの周りは、半たわみ性舗装が痛みやすい箇所のため、ピンコロ舗装を丸く配置し、耐久性を高めるとともに、デザイン上のアクセントする。

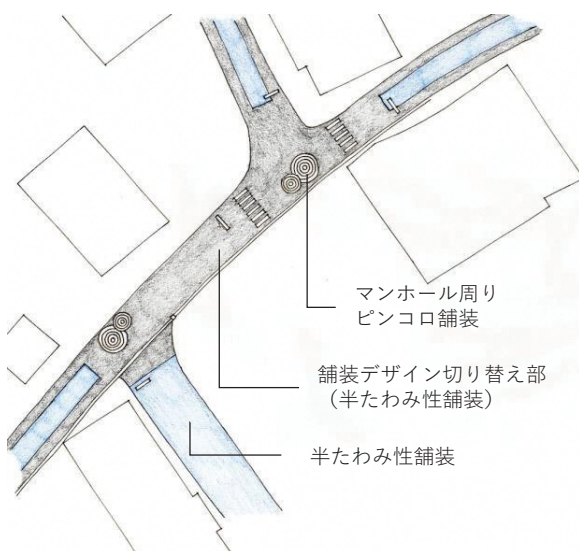


道路①の位置図

交差点部



交差点部のイメージパース（外側線有りの場合）



平面図

1. 交差点部は「半たわみ性舗装」とし、舗装デザインを切り替えて、車の速度抑制を高める。
2. マンホールなどの周りは、半たわみ性舗装が痛みやすい箇所のため、ピンコロ舗装を丸く配置し、耐久性を高めるとともに、デザイン上のアクセントとする。
3. 半たわみ性舗装の色はグレー系またはダークグレー系とする。

3章 道路のデザイン

3) 各道路のデザイン

道路③（わか久～住環境整備）



道路③のイメージパース



平面図

1. 景観性、維持管理面でも優れた舗装として、「半たわみ性舗装」を採用する。舗装の色は、グレーまたはブルーグレー系とする。
2. マンホールなどの周りは、半たわみ性舗装が痛みやすい箇所のため、ピンコロ舗装を丸く配置し、耐久性を高めるとともに、デザイン上のアクセントとする。

4) 工作物デザインの共通事項

道路区域内の工作物

1. 設置にあたっての考え方

- 設置にあたっては、整理、統合を行ない、要素が少ないスッキリとした道路景観の形成に貢献する。設置する場合は、周辺との調和が取れるよう、配置、形状、色彩の検討を行う。

2. 道路附属物の色彩・デザイン

- ガードレール、車両用防護柵、車止め、横断防止柵、転落防止柵等の道路附属物は、町分地区の景観と調和するシンプルなデザインで、透過性の高いものとする。
- 色彩は、グレーベージュを基本とする。また、光沢の低い落ち着いた色とする。

3. 街灯の仕様

- 街灯類の照明施設は、町分地区の景観を引き立たせるシンプルなデザインとする。
- 川内村の美しい星空を活用する観点から、上方への漏れ光などの「光害」（目的物以外の物を照らすことにより、人の活動や動植物へ悪い影響を与えること）の防止に配慮した、灯具や防犯灯とする。
- 街灯の色温度は2700~3000Kを基本とする。
- 街灯の灯具とポール色彩は、グレーを基本とする。また、光沢の低い落ち着いた色とする。

4. 無電柱化の推進

- 安全で快適な歩行空間の確保、良好なまち並み景観の創出を図るため、電柱・電線類を地下に收容する無電柱化を推進する。無電中化の対象区間は、現国道399号線と道路①（p.10）とする。
- 無電柱化の際には、一定間隔で設備機器の設置空間が必要となるため、道路用地や村有地、民有地等での設置位置の検討調整が必要となる。
- 設備機器の色彩はグレーベージュを基本とする。また、光沢の低い落ち着いた色とする。



くすんだグレーベージュのガードレール・防護柵は、緑の多い風景に溶け込み目立たない。



地域イメージの直接的な表現は、景観配慮とは別次元であり、決して好ましくはない。
（出典：景観に配慮した道路附属物等ガイドライン（国土交通省））

3章 道路のデザイン

4) 工作物デザインの共通事項

河川・公園区域内の工作物

1. 河川・公園区域内の工作物のデザイン
 - ・ ガードレールや転落防止柵等の色彩は、グレーベージュを基本とする。また、光沢の低い落ち着いた色とする。着色を施していない自然素材を使用する場合についてはこの限りではない。
 - ・ 堰堤や堰、護岸、水門、床止め等の河川工作物についての色彩は、この限りではない。
 - ・ 手すり、フェンスは、過剰な装飾は避け、シンプルな形状で落ち着いた色彩や素材とする。特に水辺の手すり、フェンスは、水面への眺めが意識しやすい形状や、環境に優しい素材選定に配慮する。

公共建築物の敷地内の工作物等

1. 設置にあたっての考え方
 - ・ 周辺景観との調和、まち並みの連続性の向上を図りつつ、周辺環境の向上や賑わいの創出に貢献する計画とする。
2. 街灯・照明の仕様
 - ・ 建築物内の敷地内では、灯具を設置する高さや色温度の統一を図る。色温度は2700～3000Kを基本とする。

工作物共通の色彩の考え方

人の目線よりも高い工作物	人の目線よりも低い工作物
色彩：グレー（溶融亜鉛メッキ等も可。）	色彩：グレーベージュ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号機、道路照明 ・ 街灯類 ・ 標識柱類 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガードレール ・ 防護柵、 ・ 分電盤、電線類地中化設備 など



光害に配慮した街灯（左）と配慮していない街灯（右）。（出典：ながの環境パートナーシップ会議（長野市））

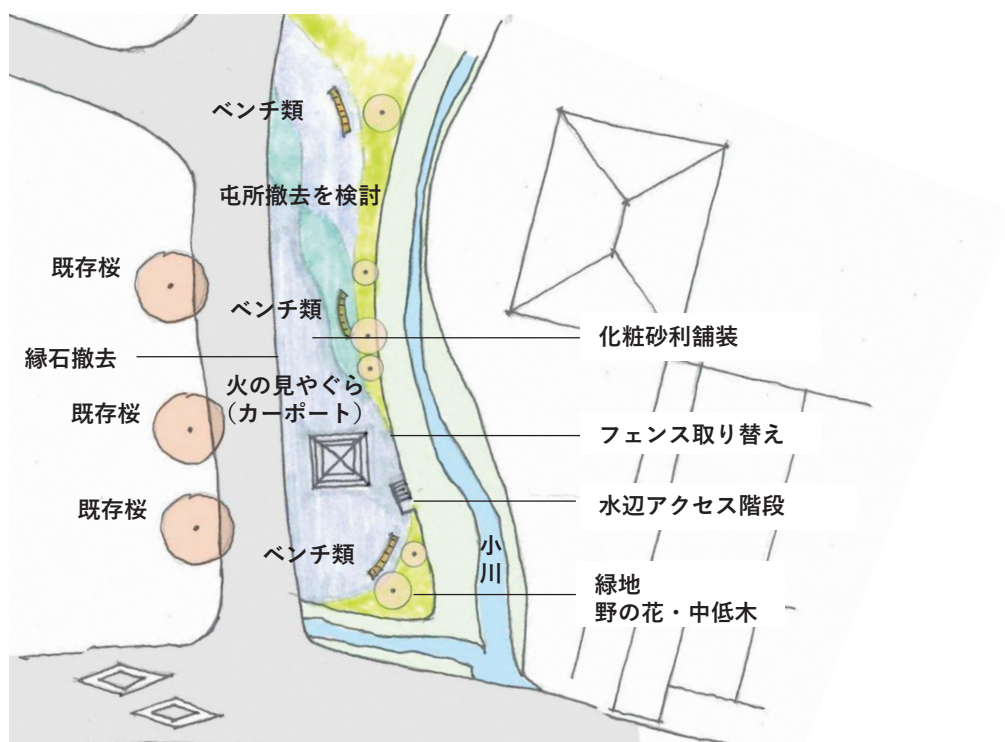


色温度2700～3000Kの照明は、あたたかみのある夜間景観をつくる。

4章 ポケットパークのデザイン



ポケットパークのイメージパース

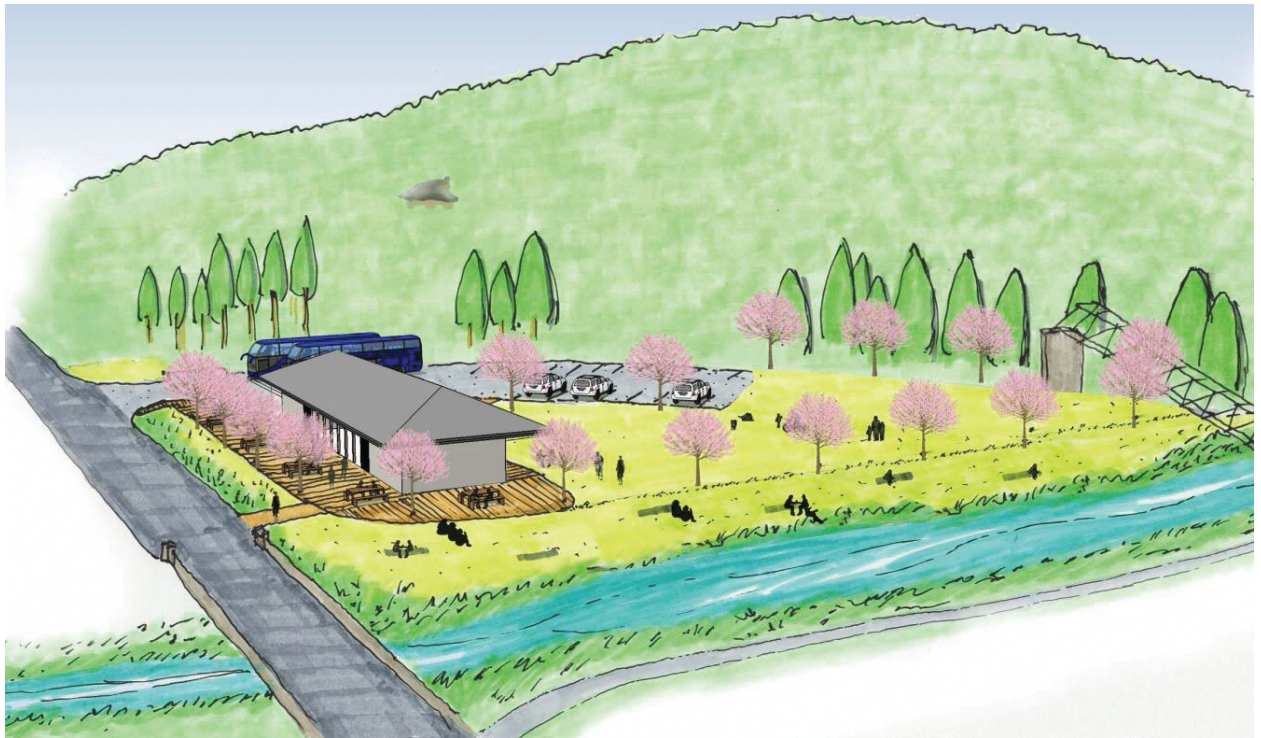


平面図

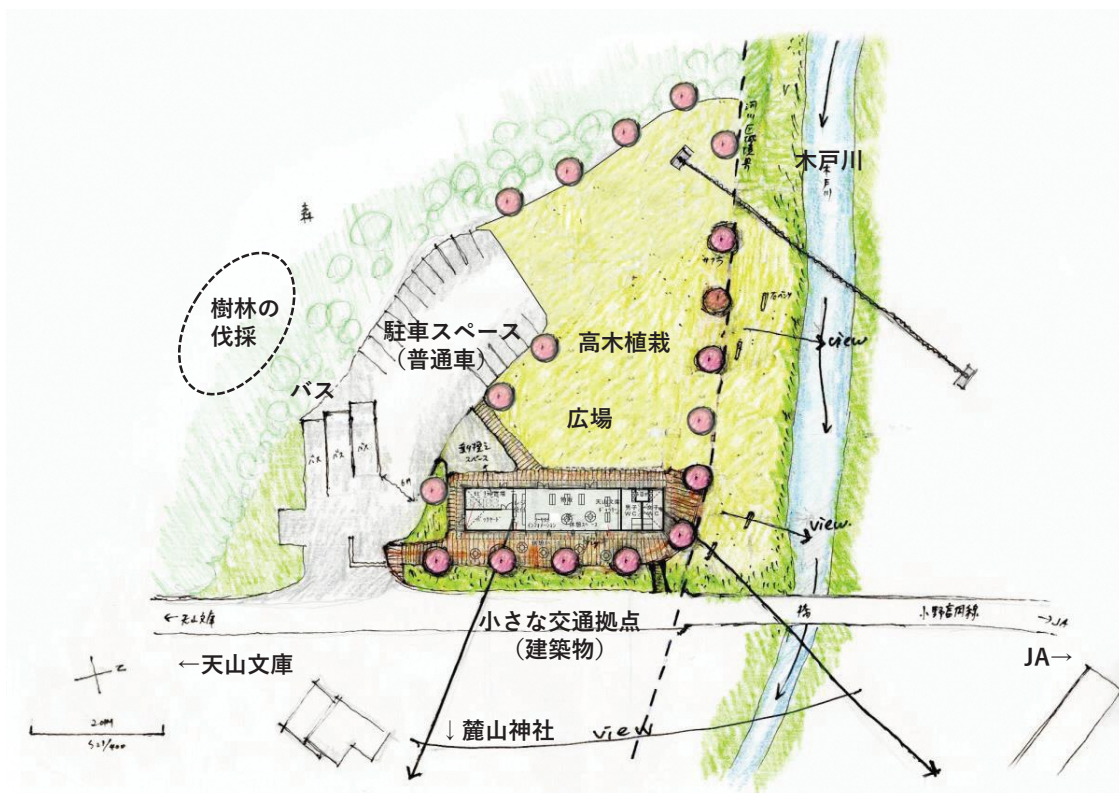
4章 ポケットパークのデザイン

1. 人が通りがかりやすい立地を生かし、休憩したり世間話などの交流ができる場所の整備を検討する。滞在を促す装置として、ベンチ等を設置する。
2. 道路沿いの縁石を撤去し、どこからでも電動カート等がアクセス可能とする。屯所の代替施設も既にあるため撤去を検討とする。化粧砂利舗装として、コスト、メンテナンス、周辺景観や環境との調和（雨水浸透）に配慮する。
3. 小川沿いの立地特性を生かし、水辺が見通しやすくシンプルな形状で、落ち着いた色彩や素材のフェンスに取り換える。また、護岸を一部撤去し、水辺へ直接アクセスできる階段設置を検討する。
4. 火の見やぐらは、地域にとって馴染みが深くまち並みのアクセントとなる構造物なので残置し生かすこととする。例えば、移動支援用のパーソナルモビリティのカーポートとしての活用が考えられる。火の見やぐらはダークグレー色で塗装する。

5章 小さな交通拠点のデザイン



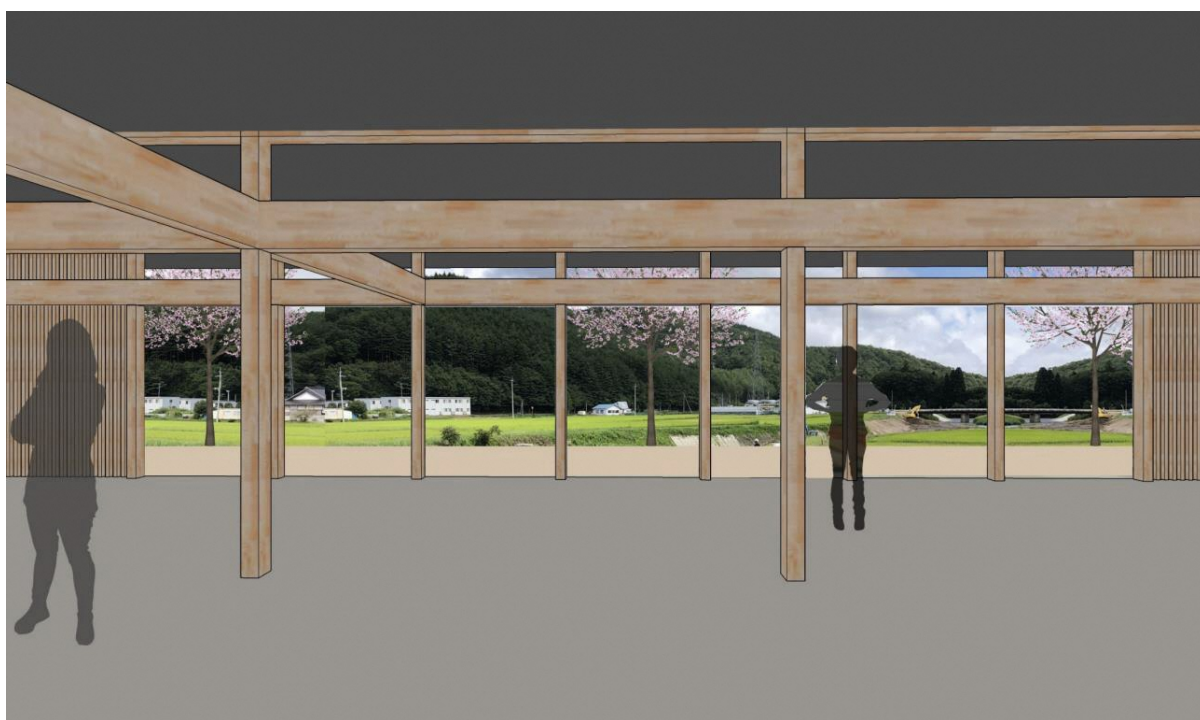
小さな交通拠点のイメージパース



平面図

5章 小さな交通拠点のデザイン

1. 小さな交通拠点の利活用や運用については、今後、関係者で協議を行ないながら計画設計を進める。
2. 木戸川沿いに立地し、麓山神社方面への眺めが良い立地特性を生かした整備を検討する。建築物の位置は、眺めの良い、川と道路に面する角地に検討する。自動車動線は既存入口を生かしつつ森側に寄せる。
3. 小さな交通拠点として、パーソナルモビリティ置き場を備える建築物を計画する。眺望スポットであり、麓山神社方面の山と田園を臨む大きな窓・開口のある建築デザインを検討する。（平面図の建築物内のレイアウトは参考。）
4. 木戸川沿いや広場となる場所に桜などを植栽し、日陰となる場所を作り、日常的に人が集まる空間づくりに留意する。
5. 町分地区からの天山文庫への眺めや、天山文庫から町分地区への眺めは、地域の方々の愛着も深く、町分らしい自然や文化を感じさせる風景が見られる場所として、眺望スポットと設定されている（p.9）。現在は樹林が大きくなり過ぎて、町分地区から眺めた際、天山文庫を隠しているため、その箇所を間伐・伐採し、かつてのように麓山神社周辺や住環境整備周辺から天山文庫が視認できるようにする。



イメージパース。大きな窓・開口から麓山神社方面を臨む。

6章 フットパスのデザイン

1) フットパス①



フットパス①のイメージパース



位置図

6章 フットパスのデザイン

1) フットパス①

1. フットパスとして、維持管理のしやすさ、整備コスト等、すべり抵抗性、舗装硬さ、周囲の景観との調和を考慮し、「砂利舗装」もしくは「土系舗装」を主な舗装材料とする。
2. 砂利舗装の表面は、砂利の沈下散失の防止や路盤変形、陥没の防止に配慮し、地盤安定カバー材（ハニカム構造材・不織布製。厚み5cm程度。）を検討する。傾斜面にも対応可能、透水性も確保できる。
3. 砂利の粒径は揃っていて、5~13mm程度と小さい粒径が、歩きやすい。粒径が揃わないと、大きめの石に足がとられるなど歩きにくく、また締固めが進み水はけが悪くなる。
4. 舗装の幅は、フットパスの機能を満たす必要最低限の幅が望ましく、90cm程度を標準とする。



左：砂利舗装
右：地盤安定カバー材



土系舗装

2) フットパス②



フットパス②の現況写真



位置図

6章 フットパスのデザイン

2) フットパス②

1. 舗装面は現状維持とする。
2. ユニバーサルデザインを考慮して、またシンプルな形状で落ち着いた色彩や素材の手すりを設置する。
3. 夜間も通行しやすいように、あたたかみのある光の色（色温度2700~3000K程度）で、手すりと一体となり器具の高さが低い照明とする。



照明付き手すり

7章 公共サインのデザイン

1) 公共サインの種類

①総合案内サイン

[役割]

目的地を探したり、目的地までの経路を把握することができる、地区の総合的な情報を提供。

[設置事例]



京都市



熊本県山鹿市

②周辺案内サイン

〔役割〕

行動を開始した歩行者が、現在地や目的地の位置を確認し、目的地までの経路を改めて確認できる情報を提供。

〔設置事例〕



新潟県佐渡市



奈良県生駒郡斑鳩町

③誘導案内サイン

〔役割〕

移動している歩行者が、目的地に正しく進んでいるか、目的地までの距離を確認する情報を提供。

〔設置事例〕



長崎県佐世保市



左：神奈川県伊勢原市大山

右：新潟県佐渡市相川

④施設案内サイン

[役割]

歩行者に目的地への到着を知らせるとともに、
目的地がどのような場所かを理解するための情報を提供。

[設置事例]

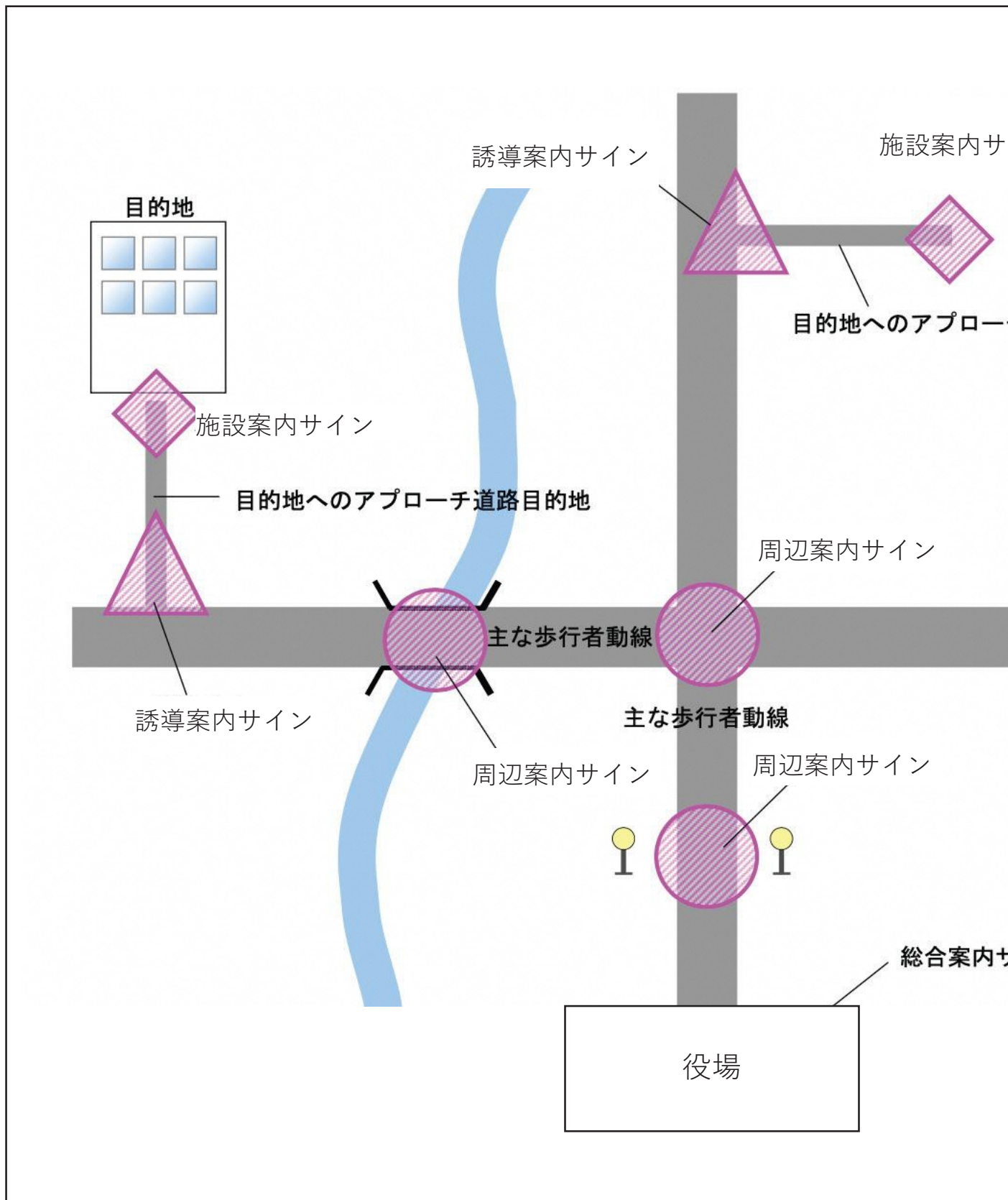


新潟県佐渡市西三川



長崎県

2) 公共サイン配置の基本パターン

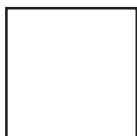


イン



チ道路目的地

サイン



総合案内サイン

駅や駐車場等の交通結節拠点、観光案内所等の情報発信拠点等の行動の起点となる場所には「総合案内サイン」を設置する。



周辺案内サイン

目的地までの中間地点で、行動の節目となる場所には、現在地や目的地、経路等を確認できるように「周辺案内サイン」を設置する。



誘導案内サイン

交差点や曲がり角等の行動が変化する場所には、目的地の方向や目的地までの距離を確認できるように「誘導案内サイン」を設置する。



施設案内サイン

目的地やその入り口となるような場所には、目的地到着や目的地に関する情報が得られるように「施設案内サイン」を設置する。

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (1/4)



7章 公共サインのデザイン

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (1/4)

1



- ・ 照明柱に併設
- ・ 誘導案内3種類 + 避難場所案内
- ・ 「いわなの郷」サインが2種類ある

2



- ・ 照明柱に併設
- ・ 誘導案内3種類 + 避難場所案内
- ・ 「天山文庫」サインが2種類ある

3



- ・ 自立型
- ・ 誘導案内かつ避難場所案内
- ・ 道路の向きに応じて、電柱を囲むように2枚設置

4



- ・ 自立型
- ・ 施設案内かつ避難場所案内

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (2/4)

5



- フェンスに設置
- 施設案内かつ避難場所案内

6



- 照明柱に併設
- 誘導案内2種類
- 「天山文庫」サインが2種類ある
- とともに片面仕様

7



- 自立型
- 誘導案内2種類 + 避難場所案内
- 避難場所案内のみ両面仕様

8



- 照明柱に併設
- 避難場所案内
- 片面仕様

7 章 公共サインのデザイン

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (2/4)

9



- 自立型
- 誘導案内
(避難場所案内はなし)
- 道路の向きに応じて、向きを変えて2枚設置

10



- 自立型
- 施設案内
- 施設利用時の注意書きあり

11



- 自立型
- 誘導案内
- 両面仕様

12



- 自立型
- 誘導案内
- 両面仕様

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (3/4)

13



- 自立型
- 施設案内
- 行きと帰りに応じた両面仕様

14



- 自立型
- 施設案内

15



- 自立型
- 誘導案内

16



- 自立型
- 施設案内

7章 公共サインのデザイン

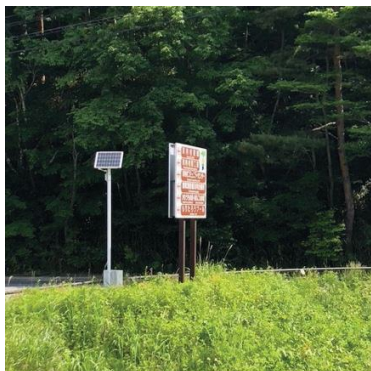
3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (3/4)

17



- 自立型
- 誘導案内
- 片面仕様

16



- 自立型
- 誘導案内
- 両面仕様

19



- 自立型
- 誘導案内2種類が個別に設置
- ともに両面仕様

20



- 自立型
- 誘導案内
- 両面仕様

3) 町分地区に今ある公共サインの種類と位置 (4/4)

21



- 自立型
- 誘導案内
- 両面仕様

22



- 自立型（道路標識と併設）
- 避難場所案内

23



- 自立型
- 誘導案内

24



- 自立型
- 誘導案内
- 片面仕様

[現地調査の結果]

- 公共サインは計24箇所設置されている。
(道路標識や私有地内サインは除く)
- サインの種類は、誘導案内サインと施設案内サインの2種類。
- 総合案内サイン、周辺案内サインのような、地区全体を把握できるサインは設置されていない。
- 誘導案内サインのデザインが主に3種類ある。(設置の時期や主体によりデザインが異なっていると考えられる)
- 避難場所を示すサインは同じデザインに統一されている。
- 主に車用サインとして設置されていると考えられるが、運転者にとっては文字のサイズが小さいものが多い。
- 誘導情報の連続性が不足している。

4) 町分地区におけるサインの役割

「町分地区景観づくり」

景観づくり構想策定の目的

- 交流人口、関係人口を拡大していく
- 歩いて楽しいむら、住みたいむら、

8つの「小さな」プロジェクト

1. 地区全体で安心して気持ちよく歩ける
2. 水路や川沿いを歩ける/遊べるフットパス
3. 誰もがまちに出られる情報案内+
4. 自然的要素を魅せて、印象的な風景

〔役割 1〕

安心して気持ちよく歩ける情報案内

役割

自分は道に迷っていないか、目的地までの正しいルートを進んでいるか等、不安を感じることなく、安心して気持ちよく歩くために必要な情報を提供することが公共サインの重要な役割である。

現状

現在の町分地区には、いくつかの施設に対する誘導案内サインが限定的に設置されているのみで、総合案内サインや周辺案内サインも設置されておらず、情報発信が不十分である。



サインの表示内容がいくつかの施設に限定されており、地区全体の把握が難しい



〔役割 2〕

町分地区の魅力を伝える

役割

町分地区はどんな自然、歴史、文化があるのか、地区の特性を村人に伝える。また、訪れる人をより深く味わってもらうために、公共サインの役割がある。

現状

現在の町分地区に対する誘導案内サインが限定的に設置されているのみで、歴史文化などの魅力を伝えるサインが不足している。



地域の歴史文化などを伝える

「くり構想」 (2020.3)

ための景観づくり
訪れたいむらの実現

ける道にする
トパスにする
モビリティを導入する
景をつくる

5. 統一感あるまち並みをつくる
6. 村内の文化的拠点とつながる
7. 空き家・空き地・残地をみんなで活用する
8. 季節や暮らしを感じる企画イベントを実施する

役割 2]

を知る情報案内

なところだろうか、どんな文化があるのだろうか等、民や来訪者が知り、地区の機会を提供することも重要な役割である。

には、いくつかの施設にサインが限定的に設置され、地区の自然、歴史、文化を伝える公共サインが設置情報発信が不十分である。



の案内が不十分

[役割 3]

町分らしい景観形成への貢献

役割

各種公共サインがトータルでデザインされ、公共サイン全体として統一感を持つとともに、それらが町分らしい風景の一部となって地区の景観形成に貢献することも公共サインの重要な役割である。

現状

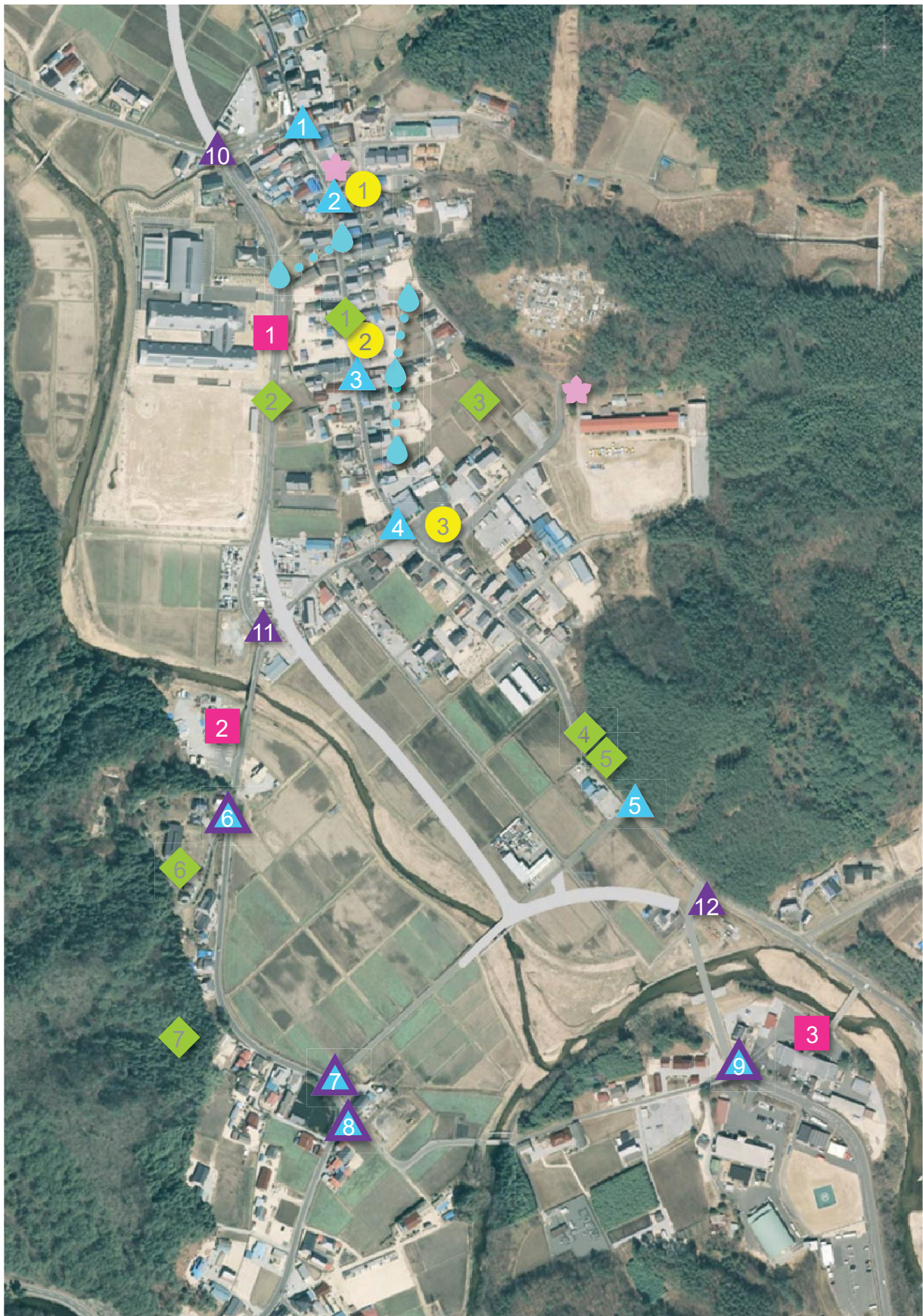
現在の町分地区のサインのデザインはバラバラで統一感がなく、また、町分らしい景観の形成に貢献するデザインが十分に施されているとは言い難い。



配置やデザインがバラバラ



5) 町分地区の公共サイン配置計画



7章 公共サインのデザイン

5) 町分地区の公共サイン配置計画

配置の基本パターンにのっとり、村民や来訪者が安心して気持ちよく歩くことができ、また町分地区のことをより深く知ることができるよう、公共サインの配置を計画する。町分中心部に設置する誘導案内サインは、歩いて行くことができる施設情報を表示する。遠方の施設は車用誘導案内サインとして、バイパス沿いに表示を集約する。車と歩行者両方に向けた誘導案内サインは、整備にあたり個別にデザインを検討する。



総合案内サイン (行動の起点となる場所)

- 1：川内小学校前
- 2：小さな交通拠点
(復興事務所土地)
- 3：川内村役場前
- 4：YO-TASHI前*



周辺案内サイン (行動の節目となる場所)

- 1：ポケットパーク（消防署やぐら有り）
- 2：バス停前
- 3：JA公衆トイレ前



誘導案内サイン (行動が変化する場所)

[歩行者用]

- 1：佐和屋前交差点
- 2：バス車庫交差点
- 3：バス停付近交差点
- 4：JA前交差点
- 5：三七三前交差点



[歩車兼用]

- 6：かわうち草野心平記念館入口前
- 7：天山文庫
～村役場間交差点①
- 8：天山文庫
～村役場間交差点②
- 9：川内村役場前交差点



[車用]

- 10：バイパス交差点①
- 11：バイパス交差点②
- 12：中央橋前交差点
(既存サイン有り)



施設案内サイン (目的地やその入り口となるような場所)

- 1：爆心地の碑（バス停前）
- 2：川内小中学園
- 3：町分コモン（住環境整備事業敷地内）
- 4：麓山神社
- 5：川内義民の碑
- 6：かわうち草野心平記念館＋天山文庫
- 7：安藤公遺児の墓（道路入口にも設置）



フットパスサイン



樹木（さくら）サイン

町分地区らしい要素として、「フットパス」や「樹木（さくら）」についてもサインを設置

* 町分地区の南に位置する複合商業施設YO-TASHIも、行動の起点となる場所であるため、総合案内サインの設置を検討する。

6) 町分地区の歩行者用公共サインのデザイン

サインの表示基準

[多言語表記]

- 使用する言語は、日本語と英語の2言語を基本とする。
- 施設の特性や表示面の見やすさ等を考慮しながら、必要に応じて中国語や韓国語を含めた多言語表記とする。

[フォント]

- 町分地区の柔らかく和風な雰囲気を表せるよう、明朝体等のやわらかなフォントを基本とする。
- サイン種類や記載する情報の優先順位等によって、フォントの太さを変えることで、表示面の見やすさを確保する。

<フォント事例>

川内村
Kawauchi Village

和文：游教科書体

英文：秀英明朝

[ピクトグラム・記号]

- 一般に使用されるピクトグラム（JISまたは標準案内用図記号）や記号を参考としながら、町分地区独自のピクトグラム・記号を作成、使用する。

<ピクトグラム事例>



かわうち草野心平記念館



川内小中学園



川内村役場

7 章 公共サインのデザイン

6) 町分地区の歩行者用公共サインのデザイン

[サイン形状]

- サイン本体の形状は、歩道のない狭い道でも設置がしやすい「立板型」とする。
- 高さは、こどもでも見やすく、目線を遮ぎらず向こう側の景色ものぞめるよう、1200mmで統一する。

[色彩]

- サイン本体の色は、既に川内村のキーカラーとなっている緑を基本とする。
- 本体下部は、川面に映る木々や山、田植え時期の水面、天山文庫の床に写り込む樹木をイメージし、アクセントとして淡い緑のグラデーションとする。
- 側面は、遠くからでもサインの存在がわかるよう明度が高く鮮やかな緑とする。
- 文字や図の色は、濃いグレーや緑を基本とし、本体の色と明度差を設けて、識別しやすいものとする。



川内村商工観光係
Instagramより



正面

側面

[他の情報媒体との連携]

- サインの表示内容は紙媒体のマップやパンフレットとの連携を図る。
- デザインやピクトグラム等、サインと同じデザインを利用することで、情報の統一感に配慮する。

①総合案内サイン

[サイズ] W1500×H1200mm

- 表示面の左側には、町分地区全体を示す広域地図（1200m四方、スケールは1/1,500）を掲載する。
- 地図には、現在地、方位、縮尺、スケール、凡例、地図作成年月を示す。
- 地図の向きは、サインに向かって前方が上となるよう表示する。
- 表示面の右側には、地区内の主要な施設、名所等の写真、名称、概要文、できる限りピクトグラムを掲載する。



②周辺案内サイン

[サイズ] W400×H1200mm

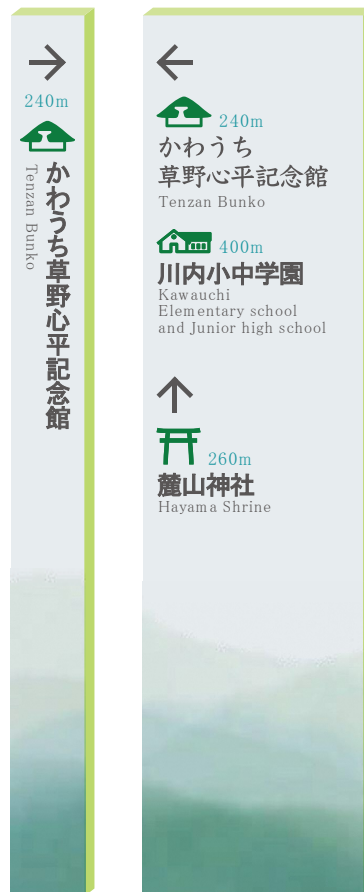
- 表示面の上部には、周辺案内図（300m四方、スケールは1/1,000）を掲載する。
- 地図には、現在地、方位、縮尺、スケール、凡例、地図作成年月を示す。
- 地図の向きは、サインに向かって前方が上となるよう表示する。
- 周辺案内図の下部には、設置地点から主だった施設の矢印・施設名称・施設までの距離と、できる限り施設を示すピクトグラムを掲載する。



③誘導案内サイン

[サイズ] W100～W300×H1200mm

- 表示面には、矢印・施設名称・施設までの距離と、できる限り施設を示すピクトグラムを掲載する。
- 施設は方向別にまとめて表示する。
- 避難場所である誘導施設（川内小中学園）には、避難場所のピクトグラムも表示する。
- 表示する施設名称の数や設置箇所の状況に応じて、その都度サイン本体の幅の検討を行う。



④施設案内サイン

[サイズ] W300×H1200mm

- 表示面には、施設名称とその施設の歴史等の解説文を、日本語と英語の2言語で表示する。
- 施設を示すピクトグラムがある場合はピクトグラムも表示する。
- 幅は300mmを基本としつつ、施設の解説文量や設置箇所の状況に応じて、その都度サイン本体の幅の検討を行う。



7) 町分地区の車用公共サインのデザイン

車用誘導案内サイン

P.51~52に示す通り、誘導案内サインは、表示する施設情報や設置箇所に応じて、歩行者用サイン、歩車兼用サイン、車用サインの3種類から適したものを配置する。ここでは、車用誘導案内サインのデザインの考え方を掲載する。

[表記]

- 表示面には、矢印・施設名称・施設までの距離と、できる限り施設を示すピクトグラムを掲載する。
- 施設は方向別にまとめて表示する。

[フォントや記号の大きさ（文字高）]

- 市街地を走行する車から35m先に設置されるサインの文字高を参考に、フォントや記号の大きさの基準は下記の通りとする。ただし、設置箇所の状況等に応じて、車からの視認しやすさを考慮しフォントや記号の大きさを決定する。

日本語・矢印・ピクトグラム・・・約100mm

英語・・・約30mm

距離・・・約40mm

参考）福岡市公共サインマニュアルより（阿蘇サインガイドライン掲載）

見る人の 移動スピード（km/h）	視認される 距離（m）	文字高 （cm）	使用される 場所・内容
60 km/h（通常に走行する車）	約 100m	30 cm	
60 km/h（通常に走行する車）	80m	23 cm	片側 2 車線以上 2 方向以下
60 km/h（通常に走行する車）	70m	20 cm	片側 2 車線以上 3 方向
40 km/h（市街地を走行する車）	40m	12 cm	一般道路・複合施設・タイトルなど
40 km/h（市街地を走行する車）	35m	10 cm	一般道路・複合施設・タイトルなど
20 km/h（徐行する車）	30m	8 cm	方向案内・タイトルなど
5 km/h（歩行する人）	15m	4 cm	方向案内・タイトル・見出しなど
5 km/h（歩行する人）	10m	2.5 cm	方向案内・タイトル・見出し・表など
0 km/h（立ち止まる人）	1.5m	1.0 cm	本文一般・解説など
0 km/h（立ち止まる人）	0.5m	0.4 cm	詳しい解説・地図など
0 km/h（立ち止まる人）	0.3m	0.2 cm	地図・分類記号など

※上の表は、視力 0.9 以上の人の標準です。

[サイズ] W800～×H1200mm

- サイン本体の幅は800mm以上を基本としつつ、表示する施設名称の長さや数、設置箇所の状況に応じて、その都度幅の検討を行う。
- 高さは歩行者用サインと同じく、原則1200mmとする。ただし、設置箇所の状況に応じて、視認しやすい高さを検討する。

[デザイン（案）]



川内村町分地区景観ガイドライン 公共施設編

発行／お問い合わせ

川内村役場 総務課
〒979-1292
福島県双葉郡川内村大字上川内字早渡11-24
Tel: 0240-38-2111
<http://www.kawauchimura.jp/>

発行日

令和3年（2021年）年 3月

